

絵本の読み聞かせによる向社会的行動の促進

○吉本青葉^{※1}・石野陽子^{※2}

(^{※1} 島根大学教育学部学校教育課程一類・^{※2} 島根大学教育学部)

目的

向社会的行動とは一般に「他者の利益を意図した自発的な行動」と定義され (Eisenberg, Fabes & Spinrad, 2006)、多くの研究がなされてきた。向社会的行動に影響を与える代表的な要因として挙げられるのが共感性である (Eisenberg & Mussen, 1989)。そして、共感性のベースにあると考えられてきたのが他者理解である。他者理解は「他者の心的状態 (特に感情) を認識し、推測し、理解する能力」と定義される (溝川・子安, 2015)。つまり、他者理解とは他者の心情を正しくとらえる心情理解ともとることができる。

今井・坊井(1994)の研究において、心情理解と絵本の読み聞かせの関連を検討したところ、絵本の読み聞かせを行った群の方が行わなかった群よりも他者の心情理解テストの成績が上昇したという結果が得られた。

村上・西村・櫻井(2014)、鈴木(1992)等、その他先行研究をまとめると、共感性、心情理解を媒介として向社会的行動と絵本の読み聞かせに関連があると考えることができる。

よって、本研究では、絵本の読み聞かせを行うことで、幼児の向社会的行動への態度が促されるのかを明らかにすることを目的とする。

方法

調査時期：2024/10/29—

調査対象：島根大学教育学部附属幼稚園、年中児 22 名 (平均年齢：5 歳 2 か月、範囲：4 歳 8 か月—5 歳 7 か月、男児 10 名、女児 12 名)

調査場所：島根大学教育学部附属幼稚園

調査方法：

(1) 実施計画

①向社会的行動に関する質問

②絵本の読み聞かせ 1 回目

③向社会的行動に関する質問

④絵本の読み聞かせ 2 回目

⑤向社会的行動に関する質問

①,③,⑤では、向社会的行動に関する質問を実施する。質問は、絵本の内容を踏まえ、山田ら

(2014)の社会的問題解決課題を参考に3題作成した。また、山本(1995)の幼児の対人葛藤場面における解決方略の分類を参考に回答の選択肢を5つ用意した。

②,④では、2冊の絵本を用い、同日に連続で読み聞かせを行う。

(2) 絵本の選定

1. おすわりくまちゃん (文: Parenteau, S., 絵 Walker, D., 2010)

2. そらまめくんのベッド (なかやみわ, 1999)

(3) 手続き

物語の提示後、質問と5つの選択肢を提示する。質問及び選択肢は、イラストを用いながら提示する。選択肢のイラストが描かれたカードを1人1セット(5つの選択肢が1枚ずつ書かれており、計5枚)配布し、1つを選んで提出してもらう。

結果と考察

読み聞かせ実施前の質問の結果

2024/10/29 15—20分程度実施

22名中19名実施(男児8名、女児11名)

表1 読み聞かせ実施前の質問結果

	1 題目	2 題目	3 題目	計
分与	14	8	5	27
寄付	2	8	13	23
言語的対応	0	0	0	0
非言語的対応	0	1	0	1
他者依存的対応	3	2	1	6

読み聞かせ実施前の質問においては、各題で選択にばらつきが見られた。また、全体としては分与、寄付の二つが多く、向社会的行動を選択した幼児が多かった。

今回の質問で、他者依存的対応や非言語的対応を選択した幼児は、読み聞かせ実施後の質問ではどの対応を選択するのか。また、1題目では分与を選択した幼児が多いが、読み聞かせを行うことで寄付が増加していくのか等の視点で今後の研究を進めていく。さらに、月齢と選択肢にどのような関連があるのかについても検討したい。